



仕事のやりがいや魅力

私は、1962年に福岡県で創業し、クラシックギターやアコースティックギター、ウクレレなどを製造している国内屈指のメーカーでクラフトマンとして勤務しています。10年近い歳月をかけ極限まで乾燥させた木材は、どれ一つとして同じものがないため、その時の環境によって加工の仕方を変えることもあります。加えて、0.01mmの加工精度が求められるため、彫刻や曲物などを扱うような木工技術も必要となります。それらの卓越した技術は、一朝一夕には身につくものではないため、先輩方の仕事を観察させていただいたり、休日もオリジナルギターを製作したりしながら技術とセンスを磨いています。日々、模索しているからこそやりがいを感じます。



仕事を選んだきっかけ

昔からコトよりモノに興味がありました。例えば、バスケットボールを始めれば、競技そのものよりもバスケットシューズというモノが気になり、収集をしていました。ギターも同じで、高校生の頃に興味を持ったバンドのメンバーがギター収集家だと知り、演奏よりもギターそのものに惹かれていきました。そのため、「将来は楽器に携わる仕事がしたい」と考えるようになり、数パターンのギターの製作技術とリペア技術を段階的に学べるカリキュラムが魅力的な本校への入学を決意しました。現在の製造現場では、ギターの歴史や各メーカー、ギターの分類や種類、特徴など、在学中に身につけた知識がとても役に立っていると感じています。



学校資料を希望される方は
こちらをTAP!